

平成 30 年度(2018 年度)第 3 回函館市地域包括支援センター運営協議会 会議録

- **開催日時** 平成 31 年(2019 年) 3 月 13 日(水) 18:30~20:00
- **開催場所** 函館市役所 8 階 大会議室
- **会議内容**
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 地域密着型サービス事業所の運営に関する事項
 - ア 地域密着型サービス事業者の指定等について・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 地域包括支援センターの運営および地域包括ケアに関する事項
 - ア 第 1 号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について・・・・・・・・・・資料 2
 - イ 平成 30 年度地域包括支援センター事業評価について・・・・・・・・・・資料 3
 - ウ 平成 31 年度(2019 年度)函館市地域包括支援センター運営体制について・・・・・・・・・・資料 4
 - エ 平成 31 年度函館市地域包括支援センター運営方針について・・・・・・・・・・資料 5
 - オ 平成 30 年度函館市地域ケア会議について・・・・・・・・・・資料 6
 - (3) 地域包括支援センターの設置等に関する事項
 - ア 平成 31 年度函館市地域包括支援センター運営事業の委託について・・・資料 7
 - イ 函館市地域包括支援センター社協の移転について・・・・・・・・・・資料 8
 - 3 その他
 - 4 閉会
- **出席委員** (11 名)
岩井祐司会長, 齋藤征人副会長, 後藤琢委員, 渡部良仁委員, 佐藤美也子委員, 佐々木大介委員, 柏原美之委員, 三國富美子委員, 船橋優子委員, 山田富雄委員, 小泉正勝委員
- **欠席委員** (0 名)
- **地域包括支援センター**
あさひ 有川管理責任者, こん中央 福島管理責任者, ときとう 長谷山管理責任者, ゆのかわ 佐々木管理責任者, たかおか 松野管理責任者, 西堀 川村管理責任者, 亀田 常野管理責任者, 神山 小杉管理責任者, よろこび 黒田管理責任者, 社協 張磨管理責任者
- **傍 聴** 2 名
- **報道機関** 1 名
函館新聞
- **事務局**
(保健福祉部) 平井部長, 本吉次長
(高齢福祉課) 佐藤課長
(介護保険課) 工藤課長, 杉澤主査
(指導監査課) 小松課長, 山名田主査
(地域包括ケア推進課) 小棚木課長, 田畑主任主事, 古口主任技師, 関主任主事

○ 会議要旨

1 開会

2 議事

(1) 地域密着型サービス事業所の運営に関する事項

ア 地域密着型サービス事業者の指定等について

岩井会長

地域密着型サービス事業者の指定等について事務局から説明願いたい。

小松課長

(資料1「地域密着型サービス事業者の指定等について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

(2) 地域包括支援センターの運営および地域包括ケアに関する事項

ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について

岩井会長

続いて、第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について事務局から説明願いたい。

工藤課長

(資料2「第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

イ 平成30年度地域包括支援センター事業評価について

岩井会長

平成30年度地域包括支援センター事業評価について、事務局から説明願いたい。

古口主任技師

(資料3「平成30年度(2018年度)地域包括支援センター事業評価について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

なお、「平成31年度函館市地域包括支援センター運営体制」および「平成31年度函館市地域包括支援センター運営方針」にも関連するため、後ほどご意見をいただいてもよい。

ウ 平成31年度（2019年度）函館市地域包括支援センター運営体制について

岩井会長

続いて、平成31年度函館市地域包括支援センター運営体制について、事務局から説明願いたい。

関主任主事

（資料4「平成31年度（2019年度）函館市地域包括支援センター運営体制について」に基づき説明）

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいるたい。

エ 平成31年度函館市地域包括支援センター運営方針について

岩井会長

続いて、平成31年度函館市地域包括支援センター運営方針について、事務局から説明願いたい。

古口主任技師

（資料5「平成31年度（2019年度）函館市地域包括支援センター運営方針（案）について」に基づき説明）

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。

函館歯科医師会でも在宅歯科医療連携室を開設して3年になる。最初は周知を積極的に行い、認知度が高まったとも感じたが、年々認知度が低下しているということが起きている。周知は、一度認知してもらえればそれでよいということではなく、難しいと感じる。

山田委員

老人クラブにももっと踏み込んでいただきたいと思います。例えば、健康づくり教室についても、老人クラブに呼び掛けてリーダーの養成をしていただくと、健康づくりを各クラブの仲間に浸透することができると思う。

普段の暮らしのなかで、町会や在宅福祉委員とはつながっているが、包括支援センターの認知度はまだ低いと思う。

三國委員

社会福祉協議会では、在宅福祉委員会を所管しており、現在、全委員会と個別に面談し、現状や今後の活動について打ち合わせを行っている。そのなかで、訪問時に異変に気付いた際の相談先も確認しているが、包括支援センターをあげる委員会も多い。

昨年、市の担当者と話をし、包括支援センターのことがすべての在宅福祉委員に十分認知さ

れていないのではないかとということで周知を強化してきたが、効果についてはまだ分からない。

社会福祉協議会としても、面談を通し、相談先として包括支援センターをさらに周知していきたいと考えている。

後藤委員

患者から相談があったときに、包括支援センターをすぐに紹介できるような体制を作りたいと考えている。患者に聞いても、どこに相談していいか分からないという方が多い。

相談シートなど色々情報を発信していただいているが、最初は活用しても、時間がたつと薄れていく。医療機関としては、しつこいくらいに発信していただいた方が、活用するようになると思う。

佐藤委員

周知については、継続しなければならぬものであると思う。独居の方の場合、病院を受診した際に認知症などの問題を抱えていると分かることがある。自ら知識を持ち、相談できる人はいいが、引きこもりがちの人など支援を求められない人もおり、そのような人達をどのように救うかが問題になる。

周知も重要ではあるが、地域の自治会などに入り込んで活動することで、つながりができればよいと思う。

佐々木委員

昨年、事業所で道に迷っている高齢者を保護した。名前しか分からなかったが、包括支援センターに相談した結果、自宅の住所が判明し、無事送り届けることができた。このことがきっかけで、先月、包括支援センターゆのかわが、居宅介護支援事業所やその他の介護保険事業所、警察等を集め、同様のケースが起きた場合にそれぞれの立場でできることを話し合う会議を開催した。自分の事業所ができることやその他の機関の役割等を考える良い機会となった。

重点取組事項にも「地域で高齢者を支える関係機関との連携」があるが、とても大事なことだと感じる。

岩井会長

包括支援センターゆのかわの佐々木管理責任者いかがか。

包括ゆのかわ 佐々木氏

それぞれの機関には役割があり、それをどのように理解し、少しずつ背伸びをして対応するかが大事だと考えている。センターと地域だけではなく、介護保険事業所や警察にも参加していただいて開催したが、来年度以降は、そのような輪をどの地域でも作っていければと考えている。

周知のターゲットは、今は包括支援センターを必要としていないが、今後必要となる可能性がある人達になると思う。現場で働いていると、早い段階で相談してもらい、問題が複雑になる前に介入することが必要だと感じる。

センターとして一番プレッシャーを感じるのは、対応力の底上げである。今後の研修計画の立案にもつながるが、センター職員が増えているなかで、職員個々の質の向上については、効果を実感できない、十分手をつけられていない部分ではある。

包括たかおか 松野氏

周知については、各センターで広報紙を作成し、約3,000部配布しているが、なかなか相談に結びつかない。見守りネットワーク事業等で配布した広報紙を取っておき、必要になったときに連絡をくれる方もおり、多少の効果はあると感じる反面、必要でなければ見ないという声も聞く。必要性を感じていない人に情報を届けることが課題である。

先ほど、山田委員にご意見をいただいた老人クラブとの連携について、東央部第2圏域では、昨年から地域ケア会議に老人クラブの方を参集し、それぞれのクラブの活動を聞く機会を設けている。センターが支援をしている高齢者を老人クラブの活動に結びつけることも必要だし、活動をまとめて全体に周知できる機会を持てればと考えている。この取り組みでセンターと老人クラブのつながりができたため、広報紙も配布するようになり、今後ますます老人クラブとの連携を強化していきけるのではないかと考えている。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。なければ、ただ今の意見を参考にさせていただきたい。

オ 平成30年度函館市地域ケア会議について

岩井会長

続いて、平成30年度函館市地域ケア会議について、事務局から説明願いたい。

古口主任技師

(資料6「平成30年度函館市地域ケア会議について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。
包括支援センター神山の小杉管理責任者いかがか。

包括神山 小杉氏

伝統行事をきっかけにした多世代交流、さらに見守りあえる仕組みづくりに発展させるということを目指して会議を運営している。今までは、高齢者に関する機関や団体の参加者が多かったが、学校関係者に参加していただくようになったことをきっかけに、子供や保護者の方も参加してくれるようになった。多世代で取り組むことにより、新しい発想が生まれたり、自分達にはないネットワークとつながるなどの効果があった。特に、パワーがある人、発信力がある人が1人入るだけで、取り組みが推進することが分かった。包括支援センターだけではできないことも、地域の方と一緒に取り組むことでできるようになることがあるため、今後も関係機関だけではなく、地域の発信力のある方、行動力のある方などを発掘し、ネットワークを構築していきたい。

岩井会長

介護支援専門員部会の取り組みについての説明もあったが、民生委員とケアマネジャーとの連携構築について、船橋委員のご意見を聞かせていただきたい。

船橋委員

以前は、民生委員が各世帯を訪問し情報を収集していたが、今は、個人情報の問題で民生委

員がなかなか訪問できない状況もあり、地域との関係が希薄になってきている。

地域によって温度差があり、私が担当する地域では、在宅福祉委員も含め地域と密着した活動ができています。先日、在宅福祉委員会の会食があり、包括支援センターの職員から認知症の講義を受けたところ、「私、認知症かもしれない。明日病院に行ってくるから。」と言う方がいて、保健師が支援に入ってくれた。認知症の方自身が1番不安だと思う。受診を強く勧めるのではなく、何度か顔を合わせる中で、自分から病院に行くことと決断できるように支援するのが、民生委員や在宅福祉委員の役割だと思うので、地域の力を借りながら、これからも活動を続けていきたい。

岩井会長

民生委員とケアマネジャーがつながると、また新しい力が生まれるかもしれない。

船橋委員

行政もその他の関係機関も、みんなでつながっていかねばならない時代だと思う。

齋藤副会長

包括支援センターたかおかと神山の事例を拝見し、動いてきたなと感じた。例えば、自分達でサロンを開くことを想定しポスターを作るなど、参加している人が地域づくりに関わっているという実感を持ってもらうような仕掛けがあったり、色々な世代の人に参加していただき、新しい支え合いの原動力を生み出そうとしているところが、近隣の頑張っている地域の取り組みに通ずるところがあると思う。

函館市の地域ケア会議は第2層協議体を兼ねているが、他の町の協議体では、郵便局やスーパー、商工会、地域おこし協力隊など、福祉の分野で関係機関と言われない多様な機関を正当な理由で巻き込んでいる。そうすると、自分達は知らなかったけど、町の人達にできることが随分あるなど感じる事例が多くでてくるため、色々な人達を巻き込むのは良いと思う。

一方で、色々な人達を巻き込むと、地域包括ケアの取り組みなのか、子供会活動か分からなくなるようなこともあるので、交通整理が必要になる。そこで、たかおかの事例のように、確かにこれが地域づくりに繋がっているとか、地域包括ケアの話をしているのだと実感していただくような仕掛けをセットで持っておくのは、とても巧みだと思った。

これからの期待している。

小泉委員

先日、函館市地域ケア全体会議に参加し、感動した。

北浜町と南本通町会の取り組みが発表されたが、小学生や中学生の協力を得て、七夕や敬老会を行ったことに感動した。小学生や中学生が家に帰り、それが家庭内でも波及していくのだと思う。

また、意見交換の実施方法も素晴らしかった。話し合いをして、意見をまとめて、最後に発表する機会が多いが、今回は、模造紙に自由に書かせて話し合い、最後に発表させなかったのが良かった。発表があると遠慮してしまうが、模造紙には、自由な意見がたくさん書いてあったと思う。

柏原委員

サービスを利用するなど、自分が支援をしてもらうことに強い拒否を示す方も多くいる。一

人暮らしの高齢者も多い。民生委員や子供たちなど、他のところからのアプローチだと心を開いてくれる人もいる。そのため、多職種や色々な業界の人が関わり、あらゆる方法でアプローチすることが大切だと思う。様々な取り組みを実施していただきありがたい。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。なければ、ただ今の意見を参考にしていただきたい。

(3) 地域包括支援センターの設置に関する事項

ア 平成31年度函館市地域包括支援センター運営事業の委託について

岩井会長

続いて、平成31年度函館市地域包括支援センター運営事業の委託について、事務局から説明願いたい。

小棚木課長

(資料7「平成31年度(2019年度)函館市地域包括支援センター運営事業の委託について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、平成31年度函館市地域包括支援センター運営事業の委託について、今年度の委託先法人に引き続き委託することを、協議会として承認してよいか。

委員

異議なし。

岩井会長

協議会として承認する。

イ 函館市地域包括支援センター社協の移転について

岩井会長

続いて、函館市地域包括支援センター社協の移転について、事務局から説明願いたい。

小棚木課長

(資料8「函館市地域包括支援センター社協の移転について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として承認してよいか。

委員

異議なし。

岩井会長

協議会として承認する。

3 その他

岩井会長

事務局，委員，センターから何かあるか。

事務局，委員，センター

特になし。

(閉会)